公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2017年2月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会④）・・・1
◆栃木ユース観察会に参加してきました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・15
（2016年12月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・17
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
・バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報を集めています（2/28まで）
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・19
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・20
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・20

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会④）

今月号では12月23日～1月21日までに5か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。

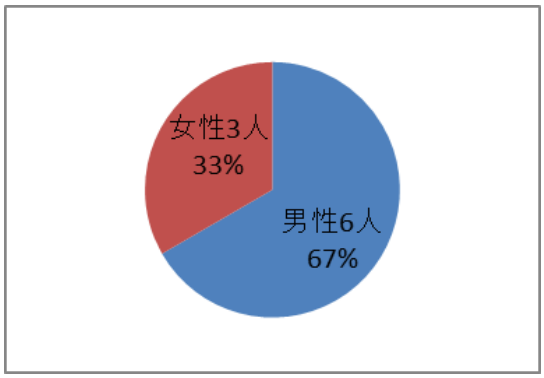
表1.

	開催日	支部名	開催場所
No16	2016/12/23(金・祝)	茨城県	乙戸沼公園
No17		京都支部	鴨川
No18		諏訪支部	諏訪湖横河川河口
No19	2017/1/14(土)	栃木	羽田沼
No20	2017/1/21(土)	神奈川支部	追浜駅～野島公園

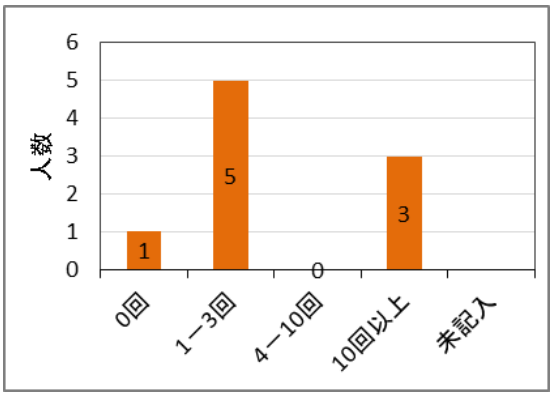
乙戸沼ビギナーズ探鳥会（茨城県）

【日時】2016 年 12 月 23 日（金・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ時々雨
【場所】乙戸沼公園（茨城県土浦市）
【参加人数】９名（うち一般参加者９名）
【リーダー】５名
【お試し入会】２名（一般参加者のうち約 22%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、６全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞よみうりタウンニュース（12/15）、茨城マリオン（朝日新聞情報紙）、産経新聞

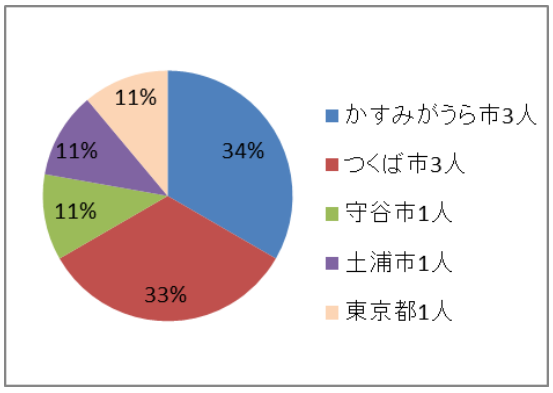
【性別】



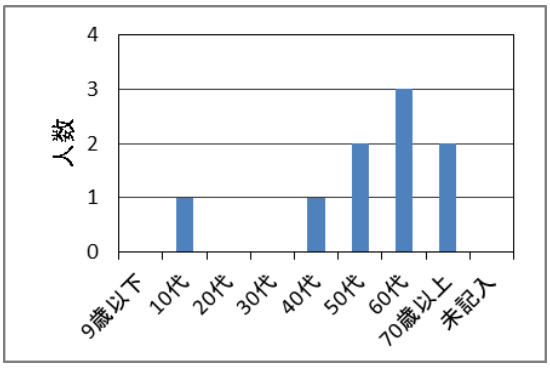
【バードウォッチングの経験回数】



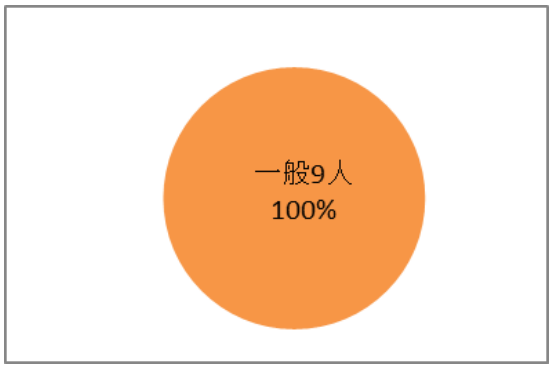
【お住まい】



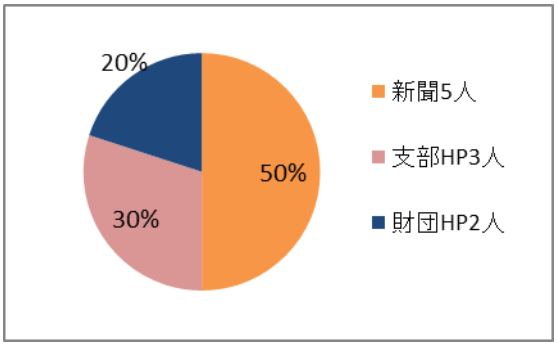
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

乙戸沼公園は、ＪＲ荒川沖駅から常磐自動車道方面へ約 ４ｋｍに位置する公園。JR 荒川沖駅からバスでアクセスが可能です。周回 ３ｋｍの乙戸沼。遊歩道が整備されており、春はソメイヨシノ、初夏にはカキツバタが咲くそうです。また、乙戸水生植物園が隣接しています。日本野鳥の会茨城県が 2016 年度に予定している「ビギナーズ探鳥会」は２回。今回はその初回となりました。

■探鳥会の様子

前夜の荒天から一変、遠くには筑波山も見え、朝から気持ちのよい晴れの日となりました。今回は９名の方にご参加頂きました。受付終了後、リーダーの自己紹介や諸注意、コースについて簡単な案内があり、探鳥会がスタートしました。

今回は少人数でしたのでグループ分けはせず､1 つのグループで乙戸沼の周りを歩きます。

受付場所が乙戸沼に面しているので、スタートからたくさんの鳥が観られます。水面にはヒドリガモ、オナガガモ、バン、オオバン、淵にはバリケンやアヒルとの雑種であるドバンなどの家禽、沼に架かる橋にはユリカモメがきれいに並び、望遠鏡や双眼鏡で観察をしました。

リーダーの方々がカモの見分け方を色や特徴で解説し、望遠鏡を覗くよう勧め、また双眼鏡の使い方などもその都度、丁寧に説明をされていました。

探鳥会をスタートしてから 15 分後、突然、激しい雨が降り出しました。事前にスマホで雨雲の動きを調べており、すぐに雨雲が通過することが分っていたため、中止や戻ることはぜず、近くの公園施設の軒下へ移動し、その場所から観察することになりました。急きょ軒下での観察会にも臨機応変に対応し、参加者の皆さんもスムーズに移動をしていました。

雨が上がり次第、沼の方へ戻り再スタートです。沼の折り返し地点あたりでコハクチョウを観察することが出来ました。参加者の皆さんは長いことその姿を見て、距離が近いので写真を撮影されている方もいました。途中、水辺の野鳥だけではなく、シジュウカラやコゲラ、ツグミなどもじっくり観察し、また、公園周辺の地理、環境の変化、植物や冬に咲く桜などの話題を織り交ぜた中身の濃い探鳥会となりました。

終了時刻の 10 分ほど前に集合場所へ戻り、全員で鳥合わせを行いました。リーダーの方から野鳥の名前が書かれたチェックリストが配られ、その表に沿って、観察した鳥たちをチェックしていきます。また、フィールドマナーや「ものさし鳥」について書かれた資料も一緒に配られ、参加者の方々は今回の探鳥会のおさらいをするようにページをめくっていました。その後、お試し入会の案内があり、最後に鳥インフルエンザへの配慮のお願いと共に靴裏の消毒についてご理解を頂き、終了となりました。

▲雨を避けながらの観察

■参加者の声

50 代男性：都内から来ました。ホームページで知り、日程が良かったので参加しました。普段、会社の近くで色々な野鳥を観ますが名前がよく分からず…。もっと知りたいなと思っています。

70 代女性：最近、散歩のついでに鳥を見るように。家から歩いて来られるので参加しました。

60 代男性：（野鳥に）あまり興味の無い友達と一緒に野鳥観察するのは難しいので、こういった会があるのはとても助かります。また来ます。

■まとめ

途中、雨に降られましたが、終了時にはそんな事も忘れ、皆さん笑顔で解散となりました。

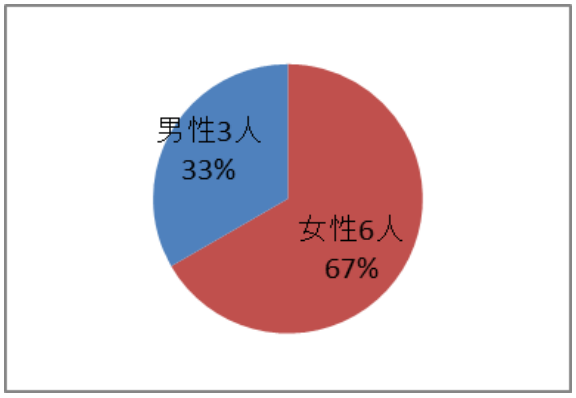
受付時に参加者の方へ「おさんぽ鳥図鑑」「お試し入会の案内」「ポストカード」等を 1 つにまとめ、小袋に入れてお渡していたのが、とても印象に残りました。今回は２名の方がお試し入会をされ、ちょっとした工夫や気遣いが取り組みの成果につながると感じました。

（普及室／関祥子）

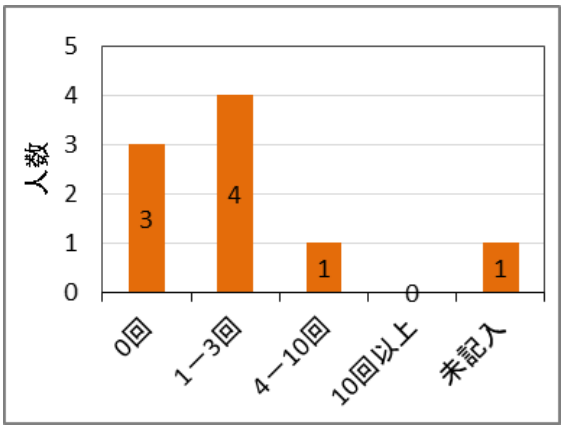
諏訪湖ビギナーズ探鳥会　（諏訪支部）

【日時】2016 年 12 月 23 日（金・祝）9 時 30 分～11 時 30 分
【天候】晴れ時々曇り
【場所】諏訪湖横河川河口（長野県岡谷市）
【参加人数】９名（うち一般参加者８名）
【リーダー】８名
【お試し入会】３名（一般参加者のうち約 37%）
【広報】＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
＜新聞＞長野日報、信濃毎日新聞

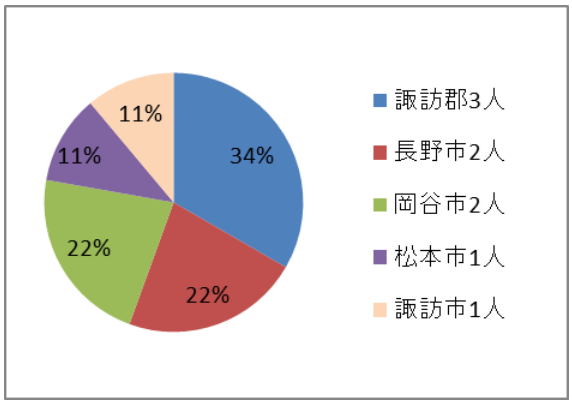
【性別】



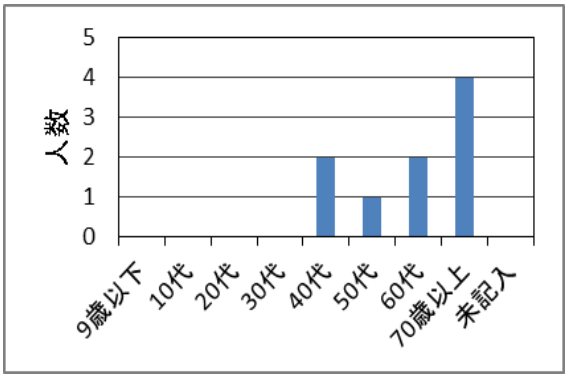
【バードウォッチングの経験回数】



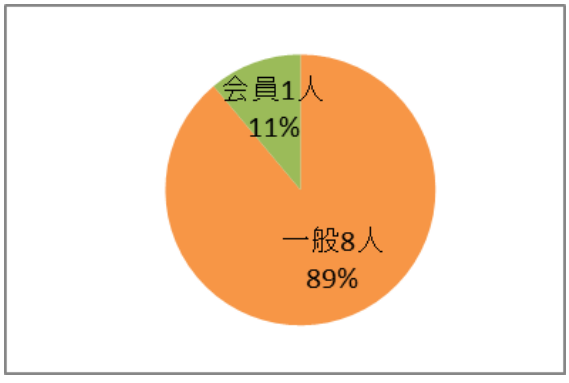
【お住まい】



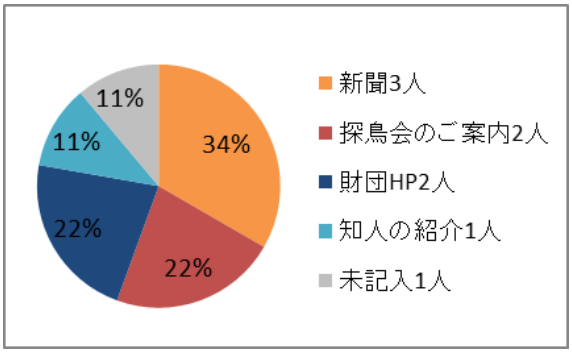
【年齢】



【会員/一般】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

諏訪支部は、今年度から「会員を増やすための探鳥会」に参加しています。バードウォッチング初心者を対象にした探鳥会は初めてだったそうですが、諏訪支部では基本的に全ての探鳥会をマスコミで広報しており、普段から一般参加者が多い中で探鳥会を開催されています。

今回の開催場所は、諏訪湖の北側、諏訪湖に流入する横河川の河口でした。移動はほとんどせず、９名の参加者が、２班に分かれて観察しました。

■探鳥会の様子

雨は降らなかったものの、気温が低く、晴れたり曇ったりする天候でした。

集合場所の駐車場では、腕章を付けたリーダーが参加者を迎え、資料の配布と双眼鏡の貸出をしました。

９時 30 分を過ぎると、支部長あいさつやリーダー紹介、諏訪湖で見られる野鳥の説明がありました。その後、バードウォッチング経験がまったくない方とある方で２班に分かれ、私は、経験のない方５名の班に加わりました。班ごとに１名ずつメインのリーダーがおり、残りのリーダーがサポートされていました。

駐車場からすぐ目の前の諏訪湖横河川河口へ移動し、双眼鏡の使い方を確認。水鳥を中心に観察をしました。

▲イラストを使ってカモを説明する様子

リーダーは、マガモやオオバン、オナガガモなど、参加者と距離が近く観察しやすい野鳥を選び、１種ずつ説明していきました。

「オオバンはカモではなくクイナの仲間です。カモとは動きが違っており、首を前後に振るのが特徴です。」

参加者は、

「今までみんなカモだと思っていましたが、違うのですね。」

と感心した様子です。併せて、

「鳥を見たまま双眼鏡をその間に入れると観察しやすいですよ。」

「バードウォッチングは、季節によって見られる野鳥が変わります。四季を通じて楽しめるのでおすすめですよ。」

とバードウォッチングのコツや楽しみも紹介されていました。

後半、土手のオナガガモを観察していると、並んだ２羽が首を上げ下げしていました。

「今はカモたちがつがいをつくる時期で、求愛のディスプレイが見られます。そこの２羽は息があっており、もうペアになっているようですね。」

とリーダーが行動の理由を説明され、皆で微笑ましい姿を観察しました。

11 時になると観察を終了し、駐車場で、簡単な鳥合わせと、諏訪湖で毎年見られるオオワシの話や支部・お試し入会の説明がありました。３名の方がお試し入会され、11 時 30 分には解散となりました。

■参加者の声

40 代男性：転勤で長野に来ました。せっかくなので長野の自然を楽しみたいと思い、双眼鏡を購入しました。こんなに多くの野鳥がいたとは思いませんでした。

60 代女性：双眼鏡を使うと、普段見ているのと全然違いました。新聞を見て開催を知りましたが、勇気を出して参加してよかったです。

■まとめ

リーダーの方は、「多くの種類を見てもらうより、じっくり見てもらうことが大切」と話されていましたが、その言葉通りに、観察しやすい野鳥に限定して参加者に紹介されていました。

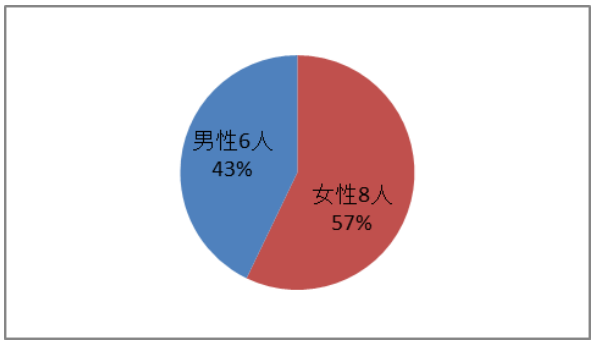
２班でお互いに観察を終了して合流する時間を調整し、解散の 30 分前には観察を終え、支部の説明やお試し入会の案内に時間を割いていたのが印象的でした。日頃から初心者や一般の方が多い中で探鳥会を行っていることが、今回の行き届いた運営に活きているのだろうと感じました。

（普及室／堀本理華）

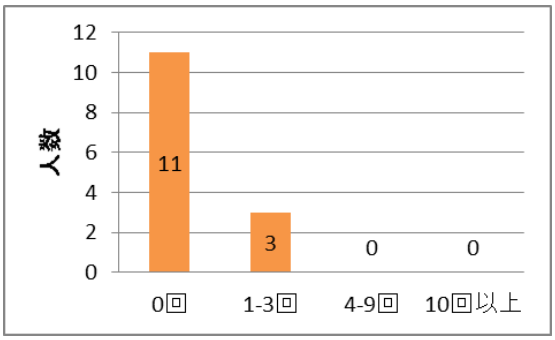
初めてのバードウォッチング@鴨川　（京都支部）

【日時】2016 年 12 月 23 日（金・祝）13 時 00 分～16 時 00 分
【天候】雲り時々雨
【場所】鴨川（京都府京都市）
【参加人数】14 名（うち一般参加者 14 名）
【リーダー】７名
【お試し入会】７名（一般参加者のうち 50%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、６全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

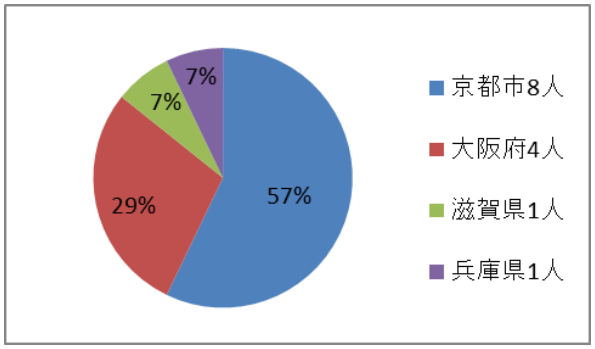
【性別】



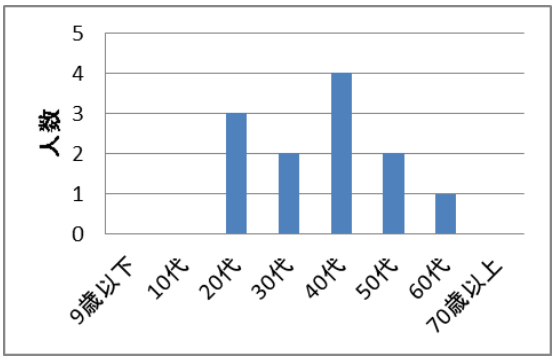
【バードウォッチングの経験回数】



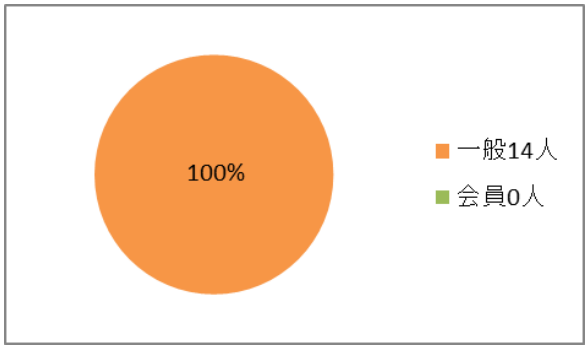
【お住まい】



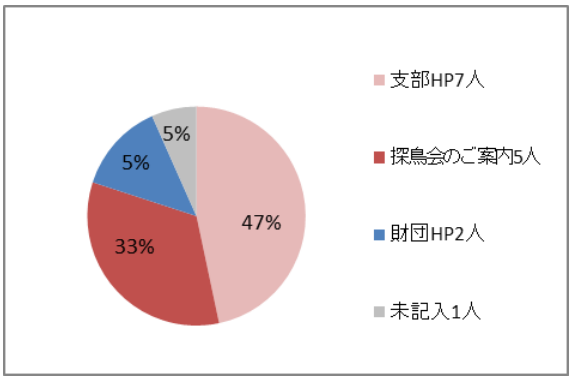
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

京都市の中心部を流れる鴨川は、市民と豊かな自然をつなぐ場所として昔から変わらず親しまれている場所です。今回の探鳥会の会場となる三条大橋～四条大橋～賀茂大橋にかけての鴨川右岸は京都の最も華やかな繁華街に隣接し、クリスマス・歳末を控えた探鳥会当日も多くの人が行き交っていました。

この時期の探鳥会会場は午前中逆光になり観察しにくいため、今回は時間を午後に設定されたとのことでした。2.2ｋｍの道のりを、水辺の鳥を観察しながら約３時間かけてゆっくりと歩きました。

■探鳥会の様子

前日の荒天の気配がまだ残ることに一抹の不安を抱きながらリーダーの皆さんが事前打ち合わせをしていると、ザーザーと雨が降り出しました。三条大橋の下で待機していましたが参加者の方にわかりやすいようにと、スコープとフラッグを見やすい場所に置き参加者を待ちます。不安げな顔でポツリポツリとやって来る参加者が、リーダーの姿を見つけてホッとした表情を浮かべます。気温も低く、雨脚も強いのに 14 名の方がおいでくださいました。

13 時 10 分、雨があがり、リーダーの挨拶で探鳥会が始まりました。コース・時間に加えて、往来が多くマンションなどの住宅も多い鴨川河川敷での観察マナーについての説明が丁寧にされました。天気の心配がありましたが、
「幸いコース途中には何本も橋が架かり雨宿りしながらの観察もできるので、無理せずに行きましょう。」
とのリーダーの言葉に参加者は安心したように頷いていました。

鴨川の川面ではカモ類・サギ類が多く観察できました。参加者が大型の水鳥の観察に慣れてきたら徐々に観察対象をセキレイ類や周囲の樹木にとまる小鳥に広げていきます。

中洲の砂利の中にイソシギやイカルチドリが現れると、早速スコープに捉えて、参加者に観察を勧めます。
「え、どこ？石ころばっかりだけど･･･」
と戸惑う参加者に根気強く位置や色、サイズを伝えていきます。ふいに
「あ、見えた！」
との声が参加者から上がると、周囲からも歓声が上がり、我も我もと発見の喜びが広がっていくさまがとても素敵でした。

厳しい天候の行程でしたが、しばしの晴れ間には見事な虹が鴨川上空に架かり、自然の美しさを実感できる瞬間となりました。

ゴールの賀茂大橋袂の広場で
「今日見た中で、一番かわいいと思った鳥、印象に残った鳥から覚えるといいですよ。」
とリーダーが締めくくりました。

お試し入会へのお誘いは、お得感と共に保護活動や調査への協力になることをアピールされて、６名の方が入会して下さいました。

最後に鳥インフルエンザ対策の靴底消毒にも皆快くご協力くださり、充実した探鳥会が散会となりました。

▲晴れ間に見事な虹！

■参加者の声

20 代女性：一人でしたが勇気を出して参加して本当に楽しかったです。これからも観察会に参加したいです。

30 代男性：鳥がこんなに魅力あるものだと気づけて嬉しいです。観察のコツがわかってもっと楽しみが広がりそうです。

■まとめ

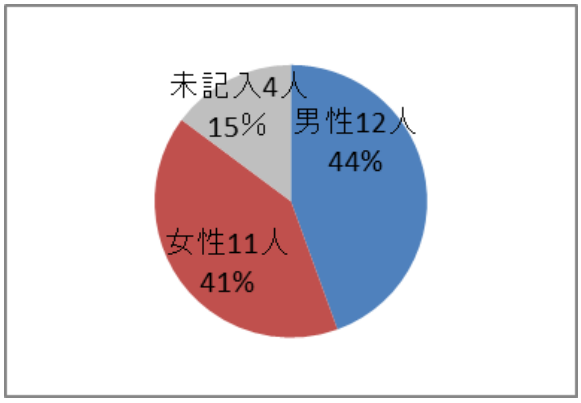
荒天のため探鳥会運営はとても大変でしたが、参加者の関心度が高く、高率のお試し入会者がありました。若い年齢層、単独参加の方が多かったのも今回の探鳥会参加者の特徴です。検証するには材料不足ですが、日程・時間設定、会場設定、天候などにヒントがありそうです。今後も京都支部の試みに注目したいと思います。

（普及室／浅野綾子）

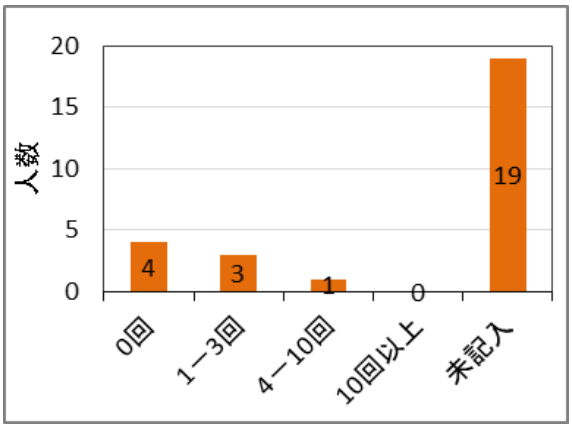
大田原・羽田沼ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2017 年 1 月 14 日（土）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】雪のち曇り
【場所】羽田沼公園（栃木県大田原市）
【参加人数】27 名（うち一般参加者 17 名）
【リーダー】8 名
【お試し入会】5 名（一般参加者のうち 29%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 全国 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）

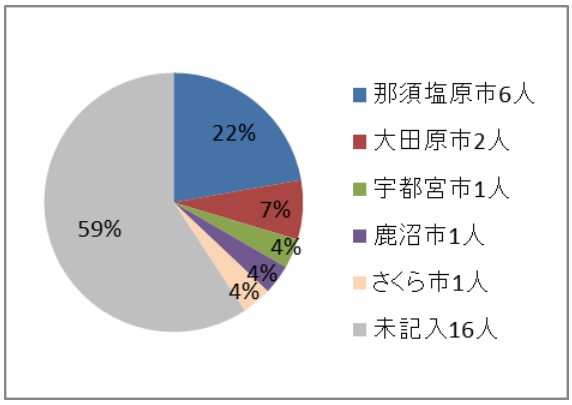
【性別】



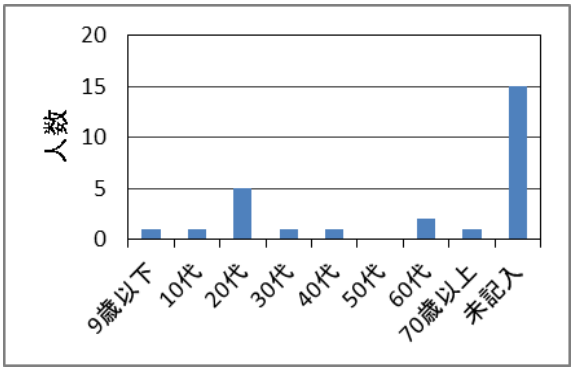
【バードウォッチングの経験回数】



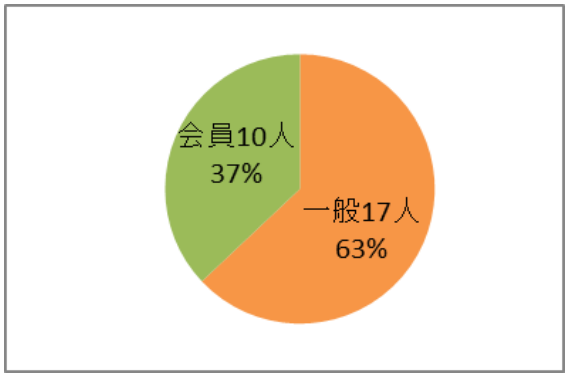
【お住まい】



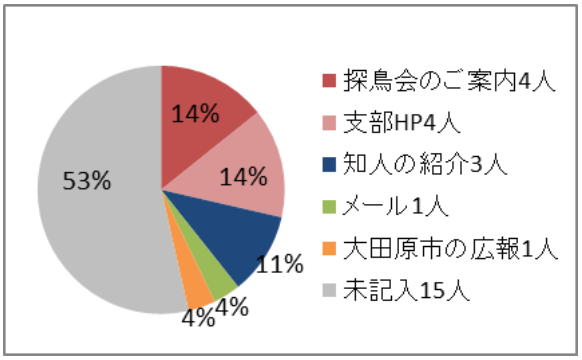
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

日本野鳥の会栃木のこの冬３回目のビギナー探鳥会です。開催場所は、栃木県北部にある灌漑用のため池、羽田沼でした。羽田沼はハクチョウ類の飛来地として知られていますが、近年ミヤコタナゴの生息地として餌やりが禁止されており、ハクチョウ類は水を張った近くの田んぼに移動しているということでした。

一般参加者は親子連れ 2 組や 20 代の方 5 名、60 代の方など 17 名（全体 27 名）。2 グループに分かれて観察をしました。

■探鳥会の様子

この日は７時頃から雪が降り出し、気温も低い中での開催となりました。果たして参加者が来てくれるだろうかというスタッフの心配をよそに、開始時間の９時に近づくと次々に参加者が集まってきました。

受付には、高原への大規模太陽光パネル設置に対する反対署名の記入用紙も置かれていました。

「自分の住んでいる市ですが、計画について知りませんでした。署名させてください。」

などと、積極的に記入する参加者の姿が見られました。

９時になると挨拶があり、寒い中での参加に対するお礼やビギナー探鳥会の特徴、コースの説明などがありました。

２班に分かれると、まず紙芝居を使って本日見られそうな鳥の説明があり、その後、羽田沼で水鳥の観察が始まりました。

▲羽田沼で水鳥を観察

各班には望遠鏡を持ったリーダーが３名おり、それぞれが参加者４名程を案内していました。

「オナガガモは尾が長いのが特徴です。」

「キンクロハジロの頭の羽に注目してください。」

とそれぞれの種類の特徴を説明。

「カモにもいろんな種類がいるのですね。」

「季節に関係なくいるのですか？」

と、参加者から質問もあがり、対話をしながら進んでいきました。中でもこの日、人気だったのはユリカモメ。迷鳥として 1 羽おり、

「わーカモメだ！」

「かわいい！」

と子どもたちも大喜びでした。

10 時前に周囲の林へ移動し、フジの実を突くコゲラやシジュウカラなどを観察しました。11 時前に集合場所へ戻り、鳥合わせとなりました。入会をお誘いする場面では、

「支部では保護活動もしています。自然保護を訴えるときには会員の数が多いと意見を強く言えます。」

「実際の活動は私たちが行いますが、皆さんにいざと言うときの支えになって欲しいと思っています。」

と理由も説明し、参加者は頷きながら熱心に話を聞いていました。

■参加者の声

30 代女性：道の駅に置いてあったプレゼント葉書で、「おさんぽ鳥図鑑」を申込みました。その後探鳥会の案内を受け取り、近くでの開催だったので参加しました。

60 代女性：前回、鳥野目野鳥公園で開催されたビギナー探鳥会にも参加しました。今回は、友達を誘って参加しました。お試し入会します。

■まとめ

水鳥は肉眼でも観察しやすく、少人数体制のアットホームな雰囲気の中、皆さん楽しそうに参加されていました。実際に反対署名を受付けていたこともあり、最後の入会のお誘いでは、入会することの意義が参加者に良く伝わっていたようでした。

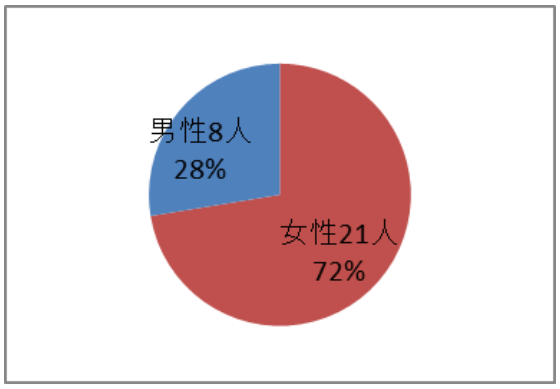
参加者と話してみると、ビギナー探鳥会のリピーターの方や、過去のビギナー探鳥会で入会した方が多いようでした。複数回参加していた方が今回、正式入会する場面も見られ、連続してビギナー探鳥会を開催していることの成果を改めて感じました。

（普及室／堀本理華）

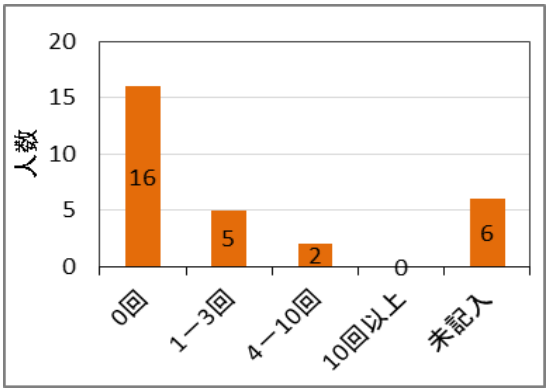
はじめての野鳥観察　（神奈川支部）

【日時】2017 年 1 月 21 日（土）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】追浜駅～野島公園（神奈川県横須賀市～横浜市）
【参加人数】29 名（うち一般参加者 28 名）
【リーダー】6 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 11%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）
　＜新聞＞神奈川新聞横須賀市版 i バザールミニ、産経新聞

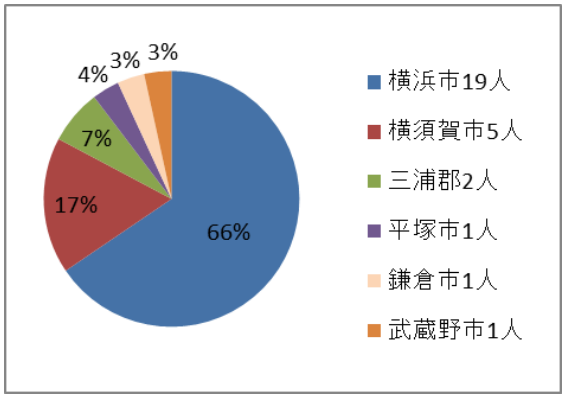
【性別】



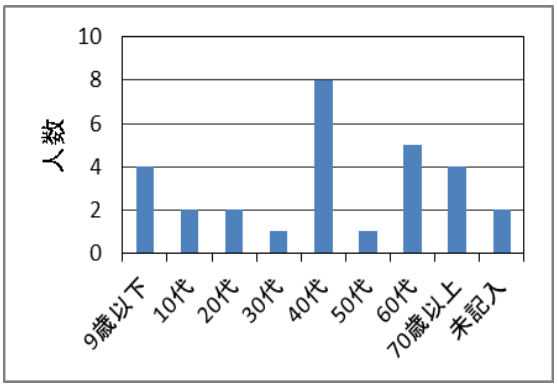
【バードウォッチングの経験回数】



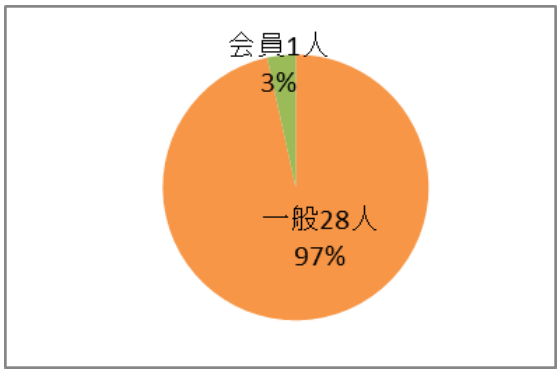
【お住まい】



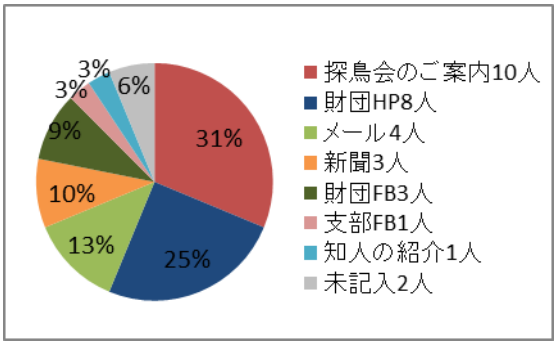
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

1/21 に、神奈川支部による会員を増やすための探鳥会の第 1 回目が行われました。今回は横浜市で唯一残った自然海岸がある平潟湾と野島公園がフィールドです。京急「追浜」駅に集合し、市街地を通り抜けて鷹取川沿いに平潟湾に出て野島へと至る約 2.7 ㎞のコースです。参加者は公募による事前申し込みで抽選された 29 名。ビルが立ち並ぶ市街地から海辺の干潟まで、刻々と変化していく景色と一緒にバードウォッチングを楽しみました。

■探鳥会の様子

＜集合場所で参加者をまつ＞

今回の参加者は、事前申込によって申し込まれたバードウォッチング初心者の方々です。京急「追浜」駅は、「横浜」から 30 分ほど電車で南下した三浦半島の東側にあり、そのためか参加者の中には横浜市の他に横須賀や鎌倉方面からの方も見受けられました。

通常の探鳥会では、駅などの人通りの多い場所で参加者を待っていると、たくさんの人の中からでも「あっ　あの人は参加者だな」と大体わかるものです。まず、足元はスニーカーやハイキングシューズ、風を通さないジャケットとその下にはフリースなどの中間着、手袋やマフラーなど風の侵入を防ぐ工夫と帽子、そしてほとんどの方は両手を空けるためにリュックを背負っています。

ところが今回の参加者は、その服装が他の通行人と区別がつきません。街中で着るウールのコートやダウンにトートバッグを肩からぶら下げて、普通に街中に遊びに来たような服装の方が多く、それだけ今回は野外の活動に慣れていらっしゃらない方が参加されていたということだったのではないかと思います。

＜鷹取川でバードウォッチング＞

参加者が全員そろい、駅前での簡単なレクチャーの後、まずは市街地を抜けて鷹取川にたどり着きました。鷹取川は三面コンクリート張りの典型的な都市河川ですが、見ていると時々ボラらしい魚が水面から飛び跳ねるのが見えます。決してきれいとは言えない川の水ですが魚は多いのでしょうか、野鳥の姿も意外なほど見ることができます。しかも、川幅がせいぜい 20～30m ほどしかない小さな川ですから、野鳥との距離が近く、双眼鏡をお持ちでない参加者の方にも野鳥の姿を見てもらうことができました。

川沿いの道を歩きながら、ユリカモメの真っ白な姿に歓声があがり、ホシハジロやヒドリガモ、カルガモの色の違い、体のつくり、しぐさなどをじっくりと観察することができました。また、アオサギやコサギなどのサギの仲間も見ることができ、その餌の取り方やしぐさを観察することができました。

みなさん見慣れた市街地の中で鳥を見て「身の回りにこんなにたくさんの野鳥がいるなんて今まで気が付かなかった。」という感想が多く聞かれました。

▲鷹取川での観察の様子

＜野島公園でバードウォッチング＞

鷹取川から平潟湾に出ると、一気に視界が開けます。湾の先には野島の島影が見え、その手前には数百羽のキンクロハジロの群れが波間に漂っていました。リーダーからはこのカモたちは主に貝を食べているという解説があり、ここが野鳥たちにとっていかに豊かな環境であるかということを実感します。海辺のカモの群れを見ながら、橋を渡り今回の目的地である野島に上陸します。

そのころには参加者は大分鳥を見ることに慣れてきて、木の梢ややぶの中を移動する小鳥にも目がついていくようになりました。林縁部にやって来たモズやシジュウカラ、イソヒヨドリなどを観察し、カモとは違うしぐさや表情を堪能しました。

＜探鳥会終了＞

約 30 分ほど時間を超過して鳥合わせと、お試し入会の案内を行い、この日は 3 名のお試し入会がありました。中には、他の地域の探鳥会に参加されている方もいらして、参加者が様々な探鳥会に参加しながら入会の機会をうかがっている様子を見て取ることができました。

朝 9 時から、約 3 ㎞を移動しながらバード

ウォッチングを堪能してきましたが、今回の探鳥会の特徴はそのコース取りにあったと思います。まず最初に駅を集合場所にして、そこから参加者が普段接している都市部を流れる川の野鳥を観察し、徐々に市街地を抜け平潟湾の海辺の環境を見せるコースになっていました。これによって、市街地と海辺の連続した環境を見てもらうことができ、参加者の中で野島の干潟が非日常のものではなく、日常と連続したものであることを印象付けていたのではないかと思いました。

しかし、その分、初心者にとっては移動距離や時間が長くなり、最後の方ではやや疲れてしまい、お試し入会してくれる人もやや少なめになってしまったことは否めないところです。会員を増やすための探鳥会の中には「参加者によい体験をしてほしい。」「会のことを知ってほしい。」「できれば入会してほしい。」といろいろな思いがあります。そのなかで何を重視すべきなのか、すぐには答えは出ないかもしれませんがいろいろ考える材料をいただいたような気がしました。

（普及室／箱田敦只）

▲野島公園での観察の様子

◆栃木ユース観察会に参加してきました！

2016 年 11 月 26 日、栃木県宇都宮市大網町で開催された、栃木ユース観察会・交流会に参加してきました。

今回の目的は２つ。１つは、栃木ユースの視察。もう１つは、探鳥会の後開かれる交流会の会場である「京屋茶舗」の視察。実は、このお店で、日本野鳥の会のオリジナルブレンドコーヒー「シマフクロウブレンド」をメニューに入れていただいているのです。

開催場所は、里地の雰囲気。鬼怒川の支流田川が流れ、河川敷には草地と灌木が生えています。周辺部は、田んぼと畑で、冬枯れの状態。丘には植林地と雑木林。観察できた野鳥は 19 種類でした。

参加者は、40～50 代の男性２人、70 代の女性１人、小学生の女の子とお母さん１組、大学生４人（欧米の女性１名含む）。スタッフは、20 代男性１人、大学生女性２人・男性２人、50 代男性１人でした。

■参加者のことを知る

まずは、集合場所へ。東京を６時出発し、到着したのは８時半。すでに、道案内がスタンバイしていて、問題なく集合場所に着くことができました。

集合場所に着き、受付をすませた後、なんとなく受付風景等を眺めていると、大学生のスタッフの一人が話しかけてきました。

「おはようございます。今日はどちらからいらしたのですか・・？」

これは参加者を１人にさせないように気を使っているなと思い、自己紹介して、今回視察させてもらいに来たことを伝え、

「私はいいので、他の方に話しかけてあげてください。」

と伝えました。

スタッフは、それぞれ参加者に話しかけ、双眼鏡の使い方や今日見られそうな野鳥の話などをしています。その中で、うまいなと思ったのは、「参加者から情報を聞き出している」ことです。参加者に満足してもらうには、いろいろな方法がありますが、まずは「参加者を知る」ことです。その方が、どこから来たのか、参加したきっかけは、どんな目的できたのか、バードウォッチングの経験等を、さりげなく聞き出していきます。また、話をすることで、その方の年齢や体調も分かってきます。その人のことが分かると、その人に合った話や野鳥の解説をすることができます。また、話を聞いてあげる、話を引き出すことで、なんとなく緊張感もなくなりますし、「私の話を聞いてくれる」という良い印象になります。

その後も、待っている間に、私が一人でいるのに気が付き、次々に話しかけてきました。これは遠慮せずに、彼らの好意に甘えてみようという気持ちになり、その後は、いろいろ話をさせていただきました。

▲観察会の様子

■解説は腹７分目

挨拶とコースの説明等は、ベテランの 50 代のリーダー。スタッフの自己紹介に続き、どんなコースを回るか、どんな野鳥たちが観察できるか、注意事項、所要時間、トイレの説明等、過不足なく適切な説明がありました。

ちなみに、スタッフはみんな、声が大きく、聞こえづらい等で参加者がストレスを貯めることはありませんでした。

人数がそれほど多くなく、スタッフの数も十分なため、班分けはせずにスタート。コースに出てからは、ビギナーがほとんどだったので、見えづらい鳥を無理に見せることもなく、ゆったりとした雰囲気で進んでいきました。その間、十分観察した方には、支部の活動の話や、周辺の環境の話をしたり、参加者から、好きな鳥や、これまでのバードウォッチングの思い出等を聞いたりと、「参加者を飽きさせない、孤立さ

せない」という心配りがしっかりされていました。

観察時間は、1 時間 30 分程度、観察できた種類は 19 種類。一般的な探鳥会としては、時間が短いと思われますが、ビギナーは初めての場所や知らない人で緊張しますし、気を張っていなければならないので、とても良い長さであったと感じました。観察した種類数も、ベテランにとっては満足いくものではないかもしれませんが、ビギナーにとっては、消化不良にならない程度で、手ごろな数であったと思います。ビギナーは、お腹いっぱいの満腹状態になるよりは、腹 7 分目くらいで、また参加したいと思ってもらった方が、次につながるのではないかと思います。

■交流会での心づかい

今回の観察会の興味深い点は、2 部制になっていること。第 1 部は、野外で探鳥会。第 2 部は、喫茶店でお茶とお菓子をいただきながら、野鳥の話をする交流会。探鳥会終了後、「京屋茶舗」の2階に上がり、それぞれのテーブルに分かれて座り、飲み物とお菓子を注文。参加費 700 円のうち、500 円が飲み物とお菓子の料金という仕組み。座る位置も配慮されていて、6 人がけ、4 人がけ、3 人がけ、2 人がけ×2 となっていますが、それぞれのテーブルに、スタッフが 1 人は座っていました。

私は、全体の雰囲気や動きを見ようと思って、遠慮して 1 人がけに座っていると、なんとしっかり、1 人スタッフがついてくれました。

交流会の時間 1 時間 30 分。特に全体で話し合うというより、テーブルごとで話をするという雰囲気でした。スタッフからの一方的な話でなく、話題を提供し、参加者同士で話が進むようにしていました。途中でスタッフが、テーブルを交代するなどの工夫もされていて、私自身も、1 時間半、楽しませていただきました。ちなみに、学生スタッフから、事務局での仕事や野鳥保護の話を聞かれ、ついつい調子に乗って、気持ちよく話してしまいました。私も学生さんのペースに乗せられたのでしょう・・・。

お昼で解散後、1 階で食事をとろうとしていると、

「一緒にいかがですか？」

と声を掛けられました。スタッフで食事をするとのこと。ちなみに、交流会から参加の 20 代の男性も一緒とのこと。遠慮なく、一緒に食事をとらせていただきました。この流れ、憎いですね。視察に参加した 50 代のおじさんも、若者たちのペースに乗せられて、観察会、交流会、食事と、しっかり楽しんでしまいました。この流れに乗せられてしまった人たちは、きっとリピートしてしまうでしょうね。

■自分がビギナーだったときのことを思い出して

食事の後、20 代の半ばのリーダーと話をしました。「気をつけている点やスタッフへの指導は？」と聞くと、「僕も探鳥会で、孤立して、寂しい思いをしたことがあるので、自分もスタッフも、参加者を孤立させないこと、参加者同士で話ができるように促すことを心がけている」とのことでした。栃木ユースのスタッフは、自分たちの経験や実践から学び、参加者への心遣いを会得し、生かしていることに感動しました。

久しぶりに若い人たちと交流し、いろいろ刺激をいただきました。実に魅力的な 1 日でした。

次回は、「京屋茶舗」の話や、喫茶店やレストランがある探鳥地のメリットをお伝えしたいと思います。

▲交流会の様子

（普及室／富岡辰先）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 12 月分）

12 月は 67 支部からご報告をいただき、計 251 回の探鳥会が開催され、のべ 6,316 人が参加されました。

表 2. 12 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 1 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	17	7	1	25
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	8	3	2	13
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	46	7	6	59
小樽支部	2	5	8	2	15
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	15	9	3	27
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	6	1	1	8
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	19	1	2	22
秋田県支部	3	29	4	3	36
山形県支部	1	4	4	3	11
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	0	0	0	0	0
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	53	16	6	75
ふくしま	2	56	0	4	60
郡山支部	2	40	1	6	47
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	0	0	0	0	0
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	23	1	1	25
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	1	5	9	2	16
茨城県	12	111	74	23	208
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	63	59	25	147
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	11	313	95	78	486
千葉県	11	190	73	57	320
東京	15	528	18	77	623
奥多摩支部	15	298	65	83	446
神奈川支部	12	194	64	34	292
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	49	16	2	67
石川	2	29	12	5	46
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	1	26	0	2	28
軽井沢支部	1	8	3	1	12
諏訪支部	2	7	16	13	36
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	−	−	−	−	−
甲府支部	2	33	4	4	41
富士山麓支部	1	9	4	2	15
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	6	11	2	19
南富士支部	2	50	4	3	57
南伊豆	1	16	0	2	18
静岡支部	2	16	10	6	32
遠江	1	29	9	3	41
愛知県支部	15	214	126	41	381
岐阜	−	−	−	−	−
三重	4	41	27	6	74
奈良支部	3	82	6	6	94
和歌山県支部	1	6	9	2	17
滋賀	6	62	50	12	124
京都支部	9	107	39	28	174
大阪支部	24	424	90	107	621
ひょうご	9	94	91	26	211
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	41	13	3	57
島根県支部	2	18	2	2	22
岡山県支部	5	103	35	17	155
広島県支部	2	26	8	4	38
山口県支部	2	17	11	2	30
香川県支部	3	113	12	4	129
徳島県支部	5	69	13	5	87
高知支部	1	11	16	1	28
愛媛	4	45	49	6	100
北九州	3	49	6	3	58
福岡支部	7	112	26	17	155
筑豊支部	4	37	13	4	54
筑後支部	3	32	10	3	45
佐賀県支部	3	56	5	4	65
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	4	49	11	4	64
大分県支部	1	19	5	1	25
宮崎県支部	2	25	2	2	29
鹿児島	3	56	39	11	106
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	251	4,209	1,322	785	6,316

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇「野鳥は捕れない」は当たり前？

科学的な知識の普及には、「まだわかっていないことが多く、今も研究は続いている」という認識も大切ではないか、と前号で書きました。今回は、「当たり前は人によって違うことがある」という観点について・・・。

2007 年発行の増補改訂版から『フィールドガイド日本の野鳥』を担当させていただくことになった私は、日本野鳥の会の発行物という観点からフィールドマナーの七か条を追記しただけでなく、野鳥は捕れないということも書き加えました。「はじめに」の中で、野鳥は許可がなければ捕獲できず、近くでよく見るには慣れや幸運が必要です・・・と、柳生博会長に語ってもらったのです。

日本野鳥の会は、中西悟堂のあるがままに親しむという考え方を元に創設されました。私たちにとっては、野鳥は原則として捕獲できないことは当たり前と言ってよいでしょう。フィールドマナー七か条のひとつ、「採集は控えて・・・」は、虫や植物でもむやみにとらないで、という意図であり、野鳥に関しては法律上の規制もあるので特に意識されていません。

日本野鳥の会にはさまざまな質問、相談が電話でかかってきます。時々、「どうやったら野鳥を捕れますか？」的なものまであります。野鳥に関心を持つ方が広く多様になったと考えて喜ぶべきなのでしょうか？　標識調査や捕獲・飼育を伴う研究も一般に広く紹介されるようになって誤解が生じているのでしょうか？いずれにせよ、『新・水辺の鳥』では、索引の前で鳥獣保護法を解説しているので、『フィールドガイド日本の野鳥』でも、野鳥は捕れない原則を明記しておきたいと考えたわけです。

標識調査については増補版までは触れられていなかったので、増補改訂版で用語解説に加えました。そこで、「鳥類では捕獲して足環を付けるのが一般的で・・・」と解説しましたが、新版では、その部分を「許可を得て捕獲して足環を付ける」と修正しました。

◇青い瞳は間違い？

新版で、カワガラスの解説に「まぶたが白く眼を閉じると目立つ」と追記したことは紹介しました（2015 年１月号）。それでも今も「カワガラスは白い瞬膜が目立つ」ような誤った解説が見受けられる中、昨年９月に発行された日本野鳥の会新潟県の会報『野鳥』に、白いまぶたの写真が掲載されていました。千葉晃さんが書かれたカワガラスの生態で、身体的特徴として説明もされていますが、まぶたを閉じることで眼が白く見えることの証拠写真として使えるものに、私は初めて出会いました。

ほかにも、頻繁に水に潜る鳥なのによく水浴びもする、繁殖後はそこからいなくなるなど、改めて勉強になりました。千葉さんに感謝です。なお、瞬膜については、増補改訂版で新設した「羽・幼羽と年齢・鳥の体」というコーナーで解説を加えています。

ところで、新版ではそれまで「目」と書かれていた箇所を「眼」に直したことにお気づきでしょうか？　例えば、高野はキンクロハジロで「目は黄色」と書いていましたが、新版では「眼は黄色」になっています。この機会にご確認いただきたいのは新版 P15「鳥の各部の名称」でして、「眼：本書では瞳の周りの虹彩の色を解説した」と追記してあります。

日本語として「目」が間違いではありませんが、新版では瞳や虹彩という用語を使う上で目を眼に改めました。キンクロハジロの眼の黄色い部分、ゴイサギでは赤い部分、西洋人で見られる青い部分は、いずれも虹彩です。ヒトは動物としては特殊で白目の部分が目立つので、色で話題になる部分を瞳と思っている方が多いのではないでしょうか？　動物の瞳＝瞳孔は、虹彩によって周囲を囲まれた孔であり、小さな黒い部分のことです。

◇ソウシチョウの尾羽に白帯はない？

『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』はお陰様で売れ続けているので、増刷の度に必要に応じた修正を施しています。『フィールドガイド日本の野鳥』の新版でも、皆様からいただいたご指摘などを元に、２刷りの段階でどこをどうすべきかの検討をしています。その一例として、ソウシチョウの尾について書いておきます。

ソウシチョウは外来種として増補改訂版から掲載しました。その図版は『新・水辺の鳥』改訂版の１刷り、２刷りまでも同じものですが、

３刷りでは谷口高司さんに修正してもらった図版を掲載しており、新版の２刷りもこちらを使おうと考えています。
　ソウシチョウの尾はとても変わっています。写真図鑑では尾は下面のものが多くてわかりにくいのですが、黒い尾羽の上面半分以上を長い上尾筒が覆っています。が、新版の図版は、黒い尾羽と上尾筒が描き別けられていないので、正確とは言えないことになります。
　なお、尾の途中に見える白い帯は、尾羽ではありません。上尾筒には先が白い羽毛があるので、尾羽の途中に白い帯があるように見えますが、白い帯の見え方には個体差があるようです。日本鳥学会誌に掲載された英文の短報（Kawano et al. 2000)、「ソウシチョウにおける性的二型」によると、上尾筒先端の白帯にも雌雄差があるそうです。

▲『新・水辺の鳥』改訂版の３刷りの際、谷口高司さんに修正してもらったソウシチョウ。黒い尾羽と上尾筒を描き別けてもらいました。

＊引用文献
千葉晃.2016. 中越地方の山麓河川で観察したカワガラスの生態　日本野鳥の会新潟県会報「野鳥」No.82:2-5

Kawano et al. 2000. Sexual Dimorphism of Red-billed Leiothrix *Leiothrix lutea* 日本鳥学会誌 vol.49,No1:59-61

（普及室／安西英明）

■バードウィーク「全国一斉探鳥会」の情報を集めています（2/28 まで）

　先月号でもお知らせしましたように、今年も、バードウィーク期間の日曜日（2017 年５月 14 日）を「全国一斉探鳥会」として広報し、一般の方に野鳥や自然に関心を持っていただく機会にしたいと考えています。（1 月号：http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201701.pdf）
　広報を希望する探鳥会がございましたら、２月 28 日（火）までに、Email または FAX、郵送で財団普及室までお知らせください。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信２月号の電子メール版の購読者数は、先月より 18 名増えて 867 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信２月号電子メール版の購読者数（2017 年２月 14 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	27
宮城県支部	39	ひょうご	18
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	54	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	39	佐賀県支部	5
千葉県	19	長崎県支部	1
東京	61	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	4
神奈川支部	21	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	867

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

今年度の「リーダーズフォーラム」も無事終了致しました。東日本では若い方のご参加も多く、賑やかに開催されたようです。

「会員を増やすための探鳥会」も残りはわずかとなっていますが、すでに５月のバードウィークへ向けての準備が始まっています。財団ホームページや「探鳥会のご案内」へ掲載させて頂きたいと思いますので、是非、情報をお寄せください。

暦の上では春になりましたね。この冬は念願の「青い」ルリビタキを見る事ができたので、ちょっとラッキー気分で良い冬でした。春からの出会いにも期待！です。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第47号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年2月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org